第３次芦屋市地域福祉計画中間年自己評価まとめ

資料１－３

評 価　Ａ：充実した取組を行った　Ｂ：通常通りの取組を行った（現状維持）　Ｃ：取り組んでいるが不十分である

推進目標	取組の柱	取組数	評 価			評価の理由（ＡとＣ評価）
			A	B	C	
1 “みんなが思いやり・支えあう福祉”への理解を広げる	(1) 地域福祉の情報を発信する	14	8	6	0	Ａ：・分かりやすく改善した　・迅速に情報発信した　・SNS 等の新たな方法を用いた ・情報の内容を充実させた
	(2) 地域福祉の学習を進める	14	6	7	1	Ａ：・ニーズもあり，積極的に講座を実施した　・学習の DVD を作成した　・学習の頻度が拡充した ・学習の場が異世代交流の場にもなった　・身近なところで学べる機会を設けた Ｃ：認知症サポーター養成講座において，受講者数が元々掲げていた目標値に達していない
2 つながりのあるコミュニティをつくる	(1) 地域福祉を支えるコミュニティをつくる	13	2	11	0	Ａ：・イベント企画でつながりを作る場としての役割を担った　・居場所が定着し，利用者が増加した ・防災の研修や訓練を通じて，地域コミュニティの横断的な取組が推進できた
3 “できること・したいこと”での参加を進める	(1) 多様な参加の場やきっかけをつくる	10	3	7	0	Ａ：・活動の財源獲得の支援により，個人，団体の希望する活動を促進した ・あしやキッズスクエアでは，地域の見守りの参画を得た
	(2) 活動への支援を充実する	10	4	6	0	Ａ：・セミナーやイベントの参加者の増加　・関係課間で役割分担し，広く啓発ができた ・ニーズを把握しながら事業を実施　・障がい者団体の実績等確認し，適切に補助金を支出
4 ニーズに気づき，支援につなぐ	(1) ニーズに気づき，つなぐ	11	2	9	0	Ａ： 相談スペースの確保により，相談しやすい環境を整えた
	(2) 相談しやすい体制をつくる	15	4	11	0	Ａ：・子ども家庭総合支援室，子育て世代包括支援センターの相談・サポート体制の確立 ・事後検討・振り返り・周知などによる，病院内での相談の質の向上　・総合相談窓口の周知
5 多様な“困りごと”を包括的に支えるサービスや活動を充実する	(1) サービスや活動の体制を充実する	7	0	7	0	－
	(2) 協働して包括的に支援する	5	3	2	0	Ａ：・退院した患者（36%）に地域の支援者と連携して支援　・芦屋 ONE チーム連絡会設立 ・生活保護から自立した後，生活困窮担当と互いに情報共有できるシステムを構築
	(3) 支援の質を高める	9	1	8	0	Ａ：子ども・子育て支援事業計画を，保護者のニーズと附属機関委員の意見を反映して策定
6 尊厳ある生活を支える	(1) 権利侵害や虐待を防ぐ	10	1	9	0	Ａ：要保護児童対策地域協議会において，関係機関との連携強化により迅速かつ的確な対応ができた
	(2) 権利擁護支援を進める	5	1	4	0	Ａ：成年後見制度の利用に関する活動について，従来業務の充実に寄与する業務を実施した
7 誰もが暮らしやすいまちづくりを進める	(1) バリアのない暮らしやすいまちをつくる	8	0	8	0	－
8 誰もが安心・安全に暮らせるように支える	(1) 災害に備える	11	4	6	1	Ａ：・横断的な地域コミュニティで避難所開設訓練を実施　・地震以外に対応する訓練や対策を進めた ・協定締結により，災害時の医薬品など迅速に供給できる体制整備を行った Ｃ：緊急・災害時要援護者台帳の更新ができておらず，活用方法にも課題がある
	(2) 弱い立場になりがちな人の安全を支える	7	1	5	1	Ａ：地域の見守り活動を行う消費生活サポーター養成講座を新たに実施 Ｃ：認知症サポーター養成講座において，受講者数が元々掲げていた目標値に達していない
9 地域福祉をみんなで進める仕組みをつくる	(1) 地域福祉のネットワークを広げ，強化する	7	4	2	1	Ａ：・市民活動者と福祉関係者をつなげ，協働できる場をコーディネート　・企業・団体等新たな主体とのネットワーク形成　・芦屋 PT・OT・ST 連絡会で地域包括ケアシステムにおけるネットワークを推進 Ｃ：地域生活支援拠点の安定的な稼働に支援が必要
	合 計	**156**	**44**	**108**	**4**	